

# タイ

## —中進国化したコメ輸出大国の苦悩—

重富真一(アジア経済研究所)

### はじめに

2007 年末から 2008 年の前半にかけて世界の主要穀物価格が急騰し、「食料危機」の到来と騒がれた。その時、コメの国際価格は 3 倍となり、他の穀物価格よりもはるかに高い上昇率を示した。こうしたコメ価格急騰の要因として、多くの研究者や研究機関によって指摘されているのは、輸出国の輸出制限と輸入国のパニック買いである。コメは生産量の 7% ほどしか国際市場に出回らない穀物であり、こうした「薄い」市場においては突然の供給減少や需要追加が、価格を大きく突き動かす。たしかに 2007 年から 2008 年にかけて、インド、ベトナム、中国、エジプト、パキスタン、ブラジル、カンボジアといった生産国、輸出国がコメ輸出の制限措置をとった。とりわけ輸出量で世界第 2 位、第 3 位のベトナムとインドによる輸出禁止の影響は大きかった。これらの国は、国際価格の高騰が国内価格に波及することを恐れたのである。こうした中で、輸出量世界 1 位のタイは、まったく輸出制限を行わなかった。それどころか、タイ政府はあの歴史的な価格高騰の最中に、農家向けの価格支持政策すら実施した。なぜタイは、急騰する国際価格に直面しても、輸出制限を行わなかったのだろうか。

直接の要因は以下の二つである。ひとつはタイの輸出余力が十分に大きく、国内向けのコメ不足が懸念される事態にはならなかったということ。もうひとつは、国内の消費者にある程度の経済的余裕が出てきたため、価格上昇でもパニックにならなかったこと。しかしこうした状況は、昔からあったわけではない。たとえば 1976 年に政府が農家庭先価格を引き上げようとしたところ、白米価格の上昇を恐れる都市労働者の反発にあって、間もなく政策を断念せざるをえなかった。1970 年代半ば以降、タイのコメ生産、輸出、マクロ経済は大きく変化したのであって、本報告は、それがどう変化したのか、なぜ変化したのかをたどっていくものである。それを通して、「食料危機」にも動じないタイのコメ輸出体制が、実は中進国化したタイ経済の上に成立しており、それゆえにタイはコメの生産と輸出に関する難しい政策課題に直面していることを示したい。

### 1. コメにおけるタイ、タイにおけるコメ

#### (1) コメの国際市場とタイの位置

- ・コメ国際市場の特色
- ・タイの位置変化

#### (2) タイの国民経済におけるコメの位置

- ・マクロ経済にとって
- ・農家にとって
- ・消費者にとって

### 2. コメ輸出大国の形成過程

#### (1) 生産量の拡大過程と拡大要因

- ・面積の増加
- ・乾季作の導入と広がり

- ・単収の増加

(2) 稲作経営の変化—スパンブリー県の事例から

- ・稲作の技術的集約化
- ・高インプット，高経営費の稲作へ

(3) 国内消費の変化

- ・1人当たり消費量の減少（1970年代初頭～）
- ・輸出余力の拡大（1970年代半ば～）

(4) 海外市場の開拓

- ・1980年代の国際市場「停滞」期におけるタイ vs 米国
- ・市場を開拓した民間企業の力
- ・市場の拡大，生産の拡大

### 3. 政府の登場

(1) コメの国内流通システム

- ・国際市場とつながる国内市場
- ・価格メカニズムの働く仕組み

(2) 政府の流通政策

- ・1970年代までの価格抑制政策
- ・1980年代以降の価格支持政策
- ・1990年代以降の質入れプログラム
- ・所得保障政策への転換

### 4. 中進国の苦悩

- ・所得格差問題と農村票の重さ
- ・コメ国際市場でのコスト競争
- ・コメ国際市場とタイ米の行方